

学力向上プラン 2024

大分県立大分豊府中学校

7 目指す学力観

「新時代を生きるみなさんへ」

人工知能をはじめとする科学技術の発展に加え、気候の変動や人々の考えの多様化など、いろいろな要因が複雑にからみ合うことで、社会が激しく変わり続ける時代となりました。

このような時代の中では、変化に自分たちを合わせていくような「柔らかさ」だけでなく、「つくりたい未来」を描き、自分たちで変化を創り出していく、そういった「たくましさ」が必要です。

そこで、大分豊府では、言葉や数字などの情報を道具として使いこなす力や、問題を発見し、その解決について考える力、想いを伝える力など、自分で考え、自分で行動できる「たくましさ」に必要な力を6年間で育てることを大切にしています。

また、中学校の3年間では、「感性」をはぐくむことを目標にしています。

「感性」とは、何かの情報に接したとき、深く心に感じ取る感覚・能力のことで、いわば、外の世界を見る「窓」のような役割もっています。そして、「感性」は自分で考え行動する「たくましさ」を生み出す^{みなもと}源となる力です。

ですから、大分豊府では、たとえば、教育合宿や、大学の先生による講座、中学生と高校生との交流行事、国際交流プログラム、プレゼンテーションやスピーチなどの発表活動の場など、いろいろな取組を準備し、外の世界を見る「窓」をたくさんつくって生徒のみなさんの「感性」をはぐくんでいきます。また、その「感性」を活かして、中高6年間の授業「未来 Navigation」で「つくりたい未来」や「進むべき道」を見つけていきます。

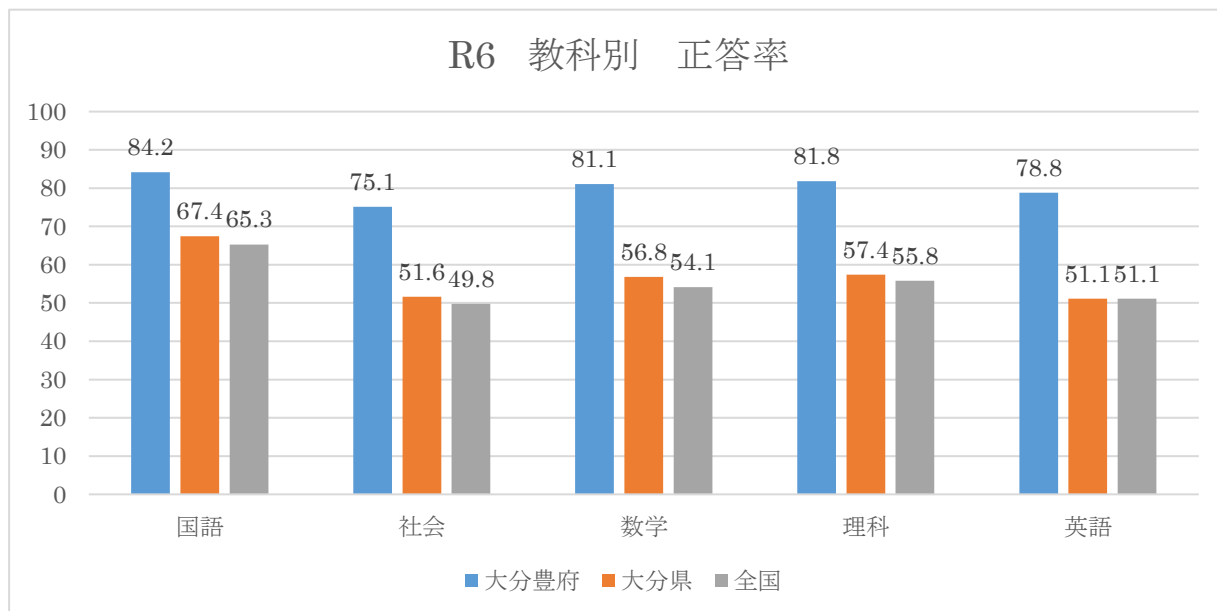
こうして培った豊かな「感性」の上に成り立つ「たくましさ」は、きっと、新時代を生きるみなさんの将来の拠り所となるでしょう。

—「羅針盤 2025」より—

Ⅱ 学力状況と学習状況

1 学力状況—大分県学力定着状況調査（令和6年4月 対象中2）より—

〈データ1〉各教科の正答率



〈データ2〉カテゴリ-別（知識分野・活用分野）

知識分野の正答率		国語	社会	数学	理科	英語
正答率	大分豊府	87.0	76.1	85.5	86.7	80.2
	大分県	72.2	56.6	61.3	65.4	53.3
	全国	70.2	54.5	58.3	63.5	53.9
全国との差		16.8	21.6	27.2	23.2	26.3

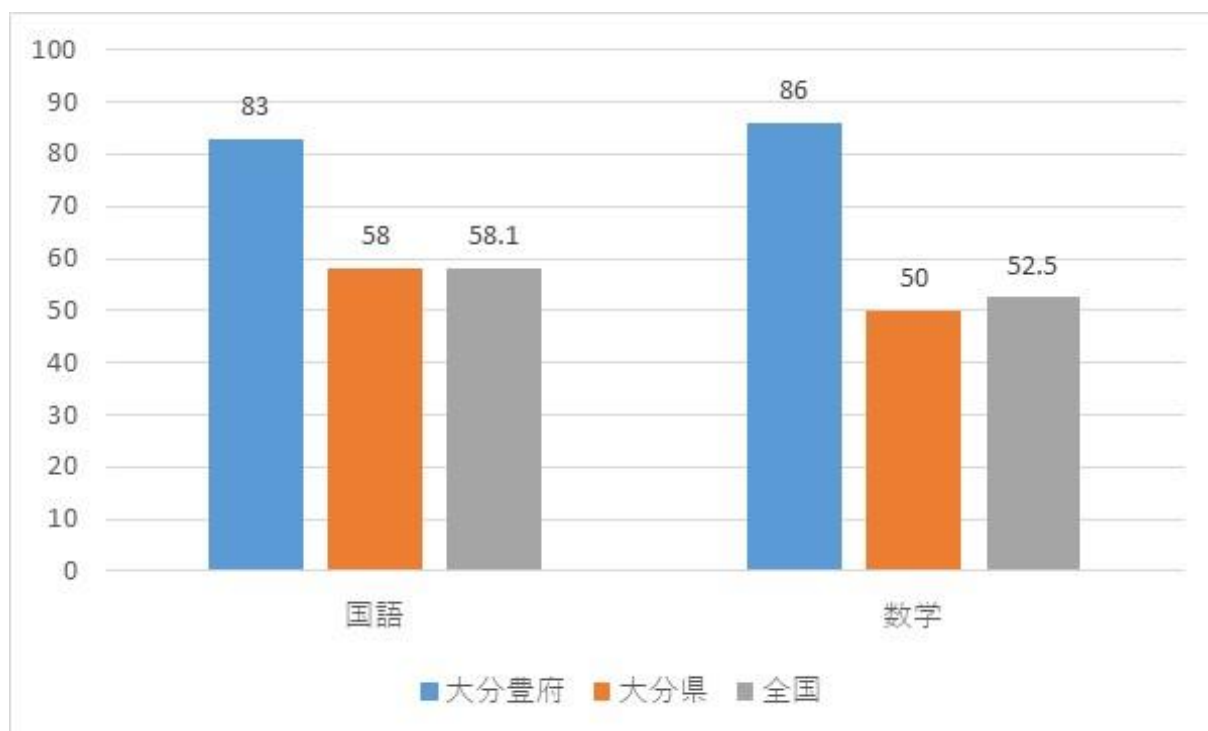
活用分野の正答率		国語	社会	数学	理科	英語
正答率	大分豊府	79.0	73.1	67.8	71.5	75.8
	大分県	58.2	41.7	43.6	40.7	46.7
	全国	56.0	40.4	41.7	39.7	45.4
全国との差		23.0	32.7	26.1	31.8	30.4

大分豊府中学校の強み①活用力

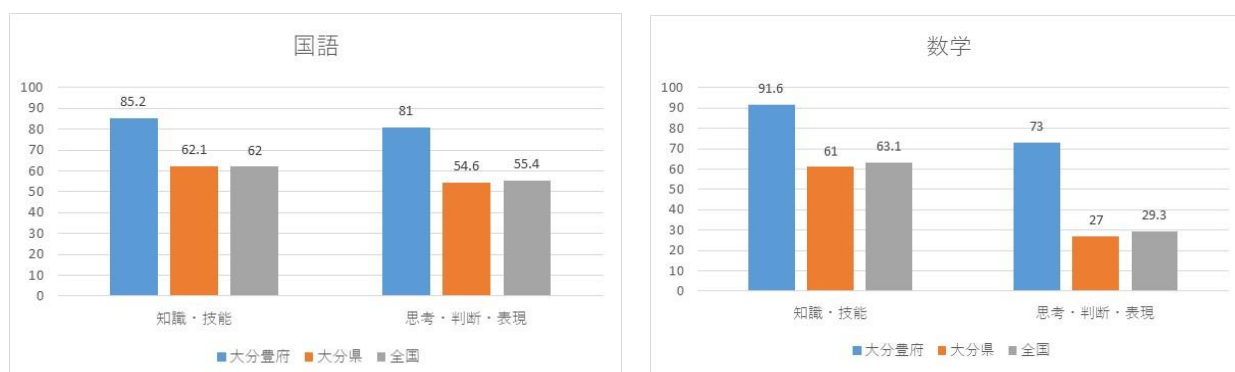
身につけた知識・技能を活用し、問題を解く力、
思考力・判断力・表現力が備わっているということ。

2 学力状況—全国学力・学習状況調査（令和6年4月 対象中3）より—

〈データ3〉各教科の正答率



〈データ4〉「問題別調査結果」

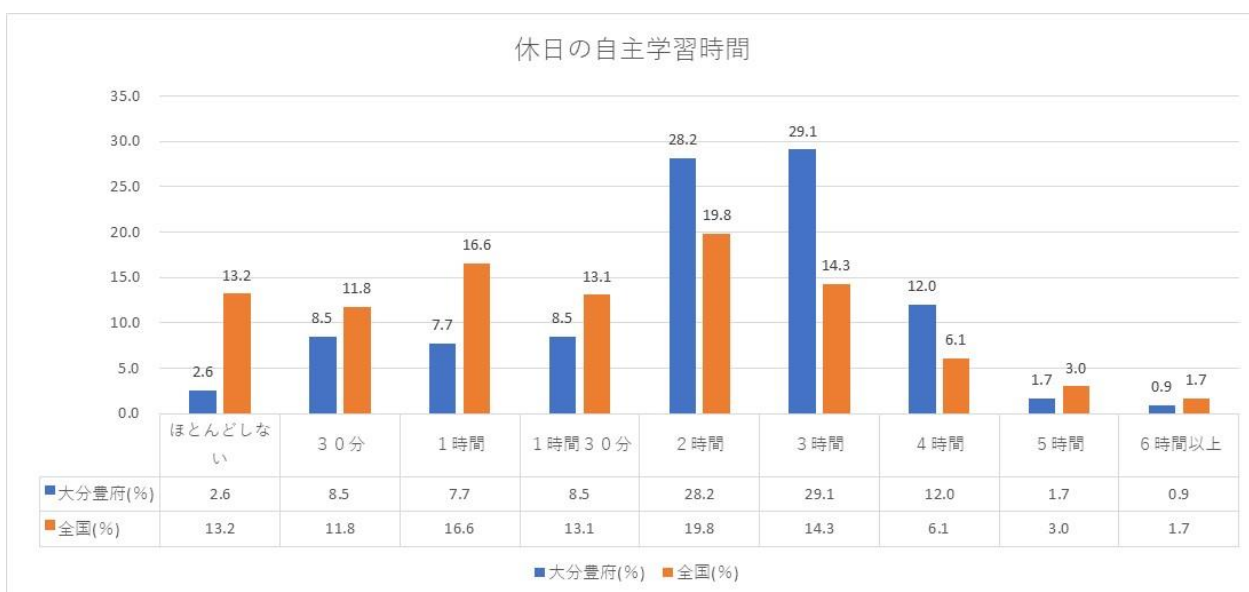
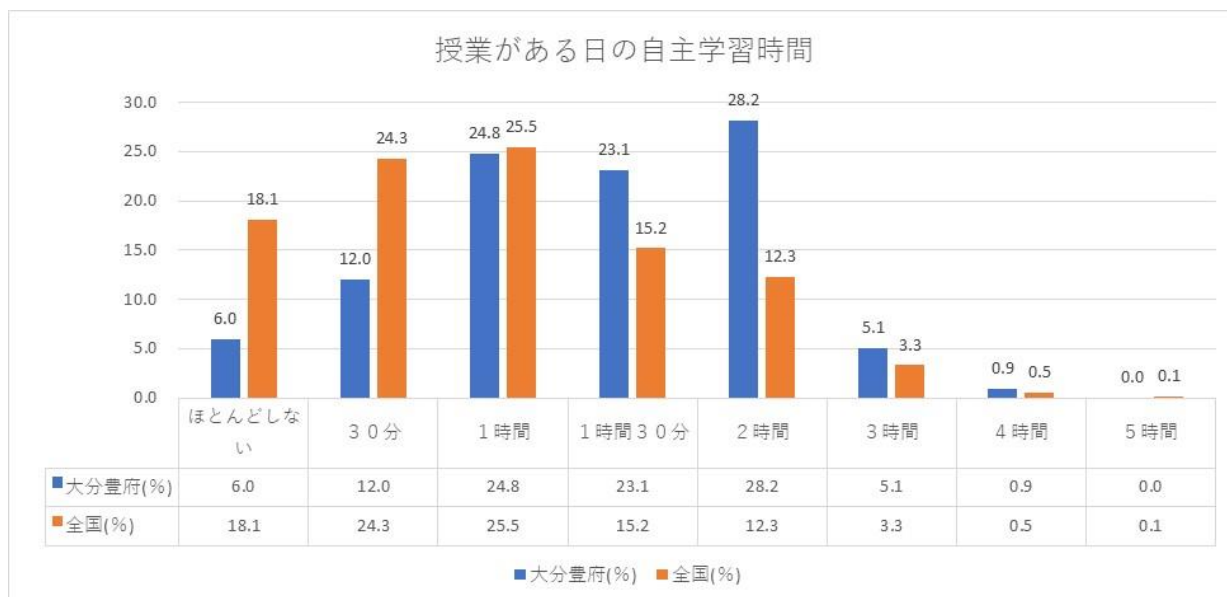


大分豊府中学校の強み「活用力」の再確認

中2対象の「大分県学力定着状況調査」と同様に、中3対象の「全国学力・学習状況調査」においても、「知識・技能」を活用する力「思考・判断・表現」が高いことがわかる。

3 学習状況－学力推移調査（令和6年4月実施）より－

〈データ5〉本校中3生と、全国中高一貫校との比較



大分豊府中学校の強み②自学力

平日・休日ともに自主学習時間が全国と比較して多い。主体的に学習に取り組む習慣「自学力」が身に付いている。

4 学力状況と学習状況のまとめ

(1) 大分豊府中学校の強みは**活用力**と**自学力**

活用力を育成する取組（例）	
・話し合い活動を取り入れた授業 ・生徒が調査して発表する授業 ・生徒が体験して発表する授業 を実施しています	全学年
・総合的な学習の時間は探究学習をしています	全学年
・Iris ではレベルの高い発表を目指します	全学年
・夏の作文課題（人権作文など多岐にわたって）	全学年
・社会科の授業を増やしています	中1
・学校独自教科「コミュニケーション」の実施	中1・2
・学校独自教科「ファウンデーション」の実施	中3

自学力を育成する取組（例）	
・Memoria に学習時間を毎日記入	全学年
・学習時間調査を実施しています	全学年
・絶対下校時刻を厳守する指導をしています	全学年
・T-time（定着の時間）を実施しています	全学年
・夏休みは My Way Room を開放しています	中3
・考査は数日に分けて実施。学習時間を確保させています	全学年
・考査前は部活動停止です（3日～7日前）	全学年
・夏休みは各自で深める課題もあります （理科の自由研究など）	全学年
・放課後に My Way Room を開放しています	中3

・ **順調に取組の成果が出ています。**

・ **「活用力」と「自学力」を**

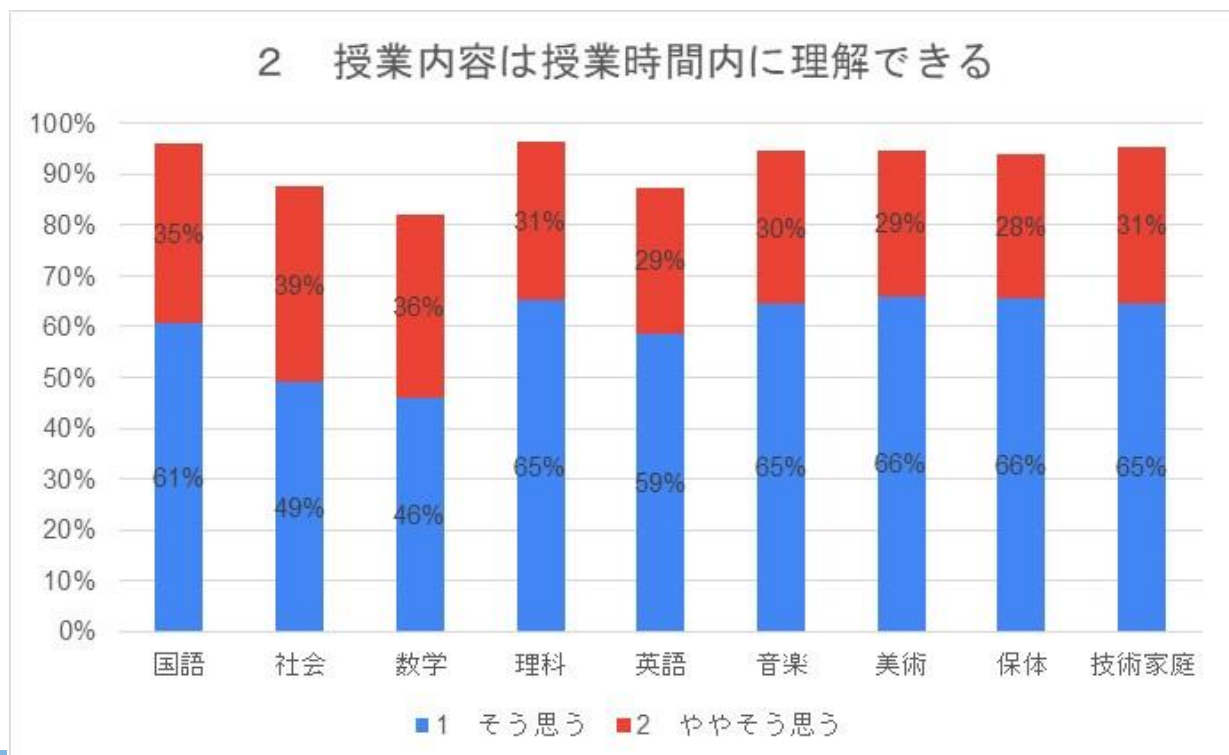
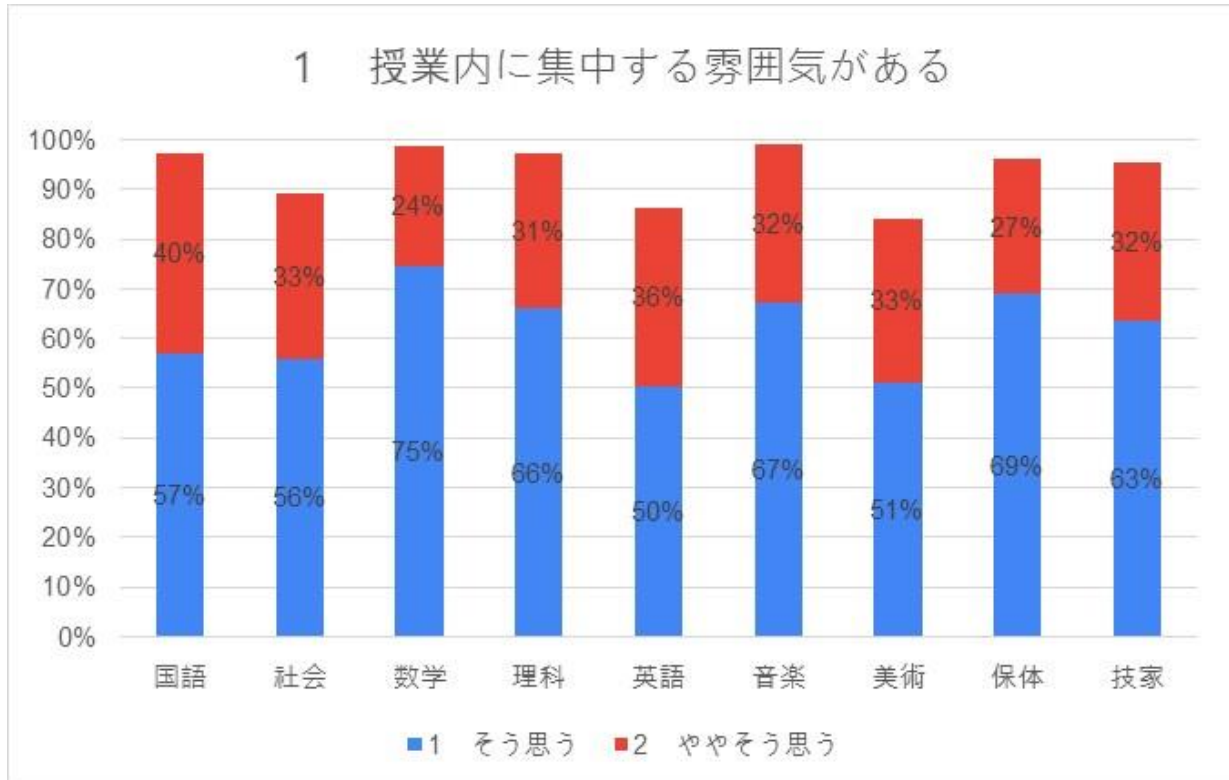
育成する取組を今後も継続します。

Ⅲ 今後の取組

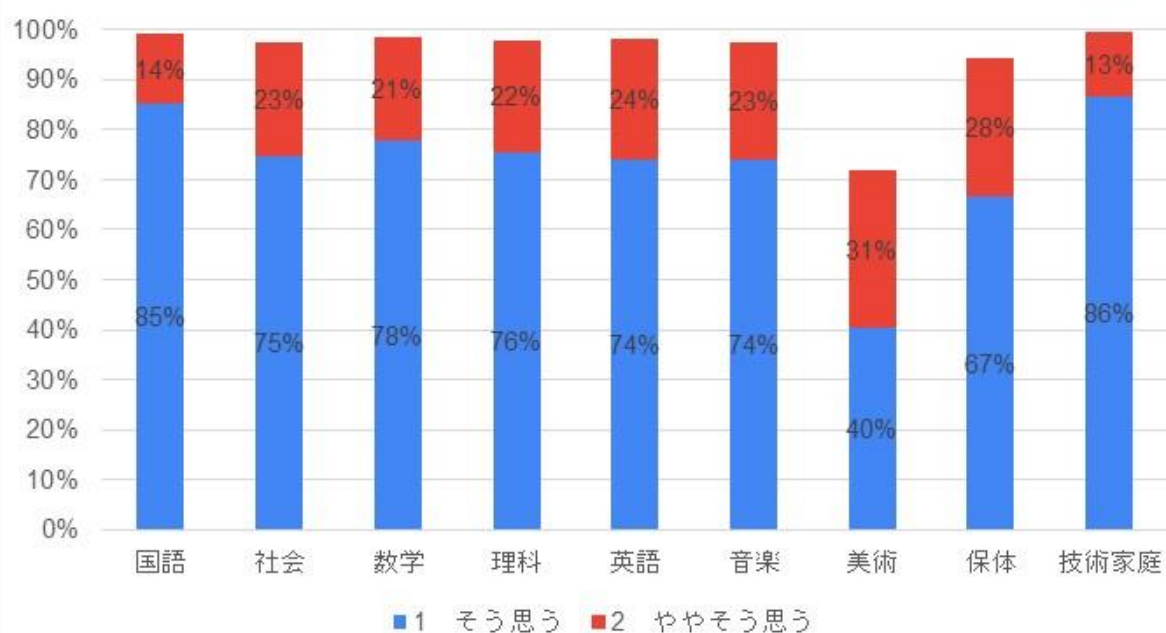
1 授業改善の取組・学習状況改善の取組

(1) 授業の実態の把握—生徒の授業に対する印象—

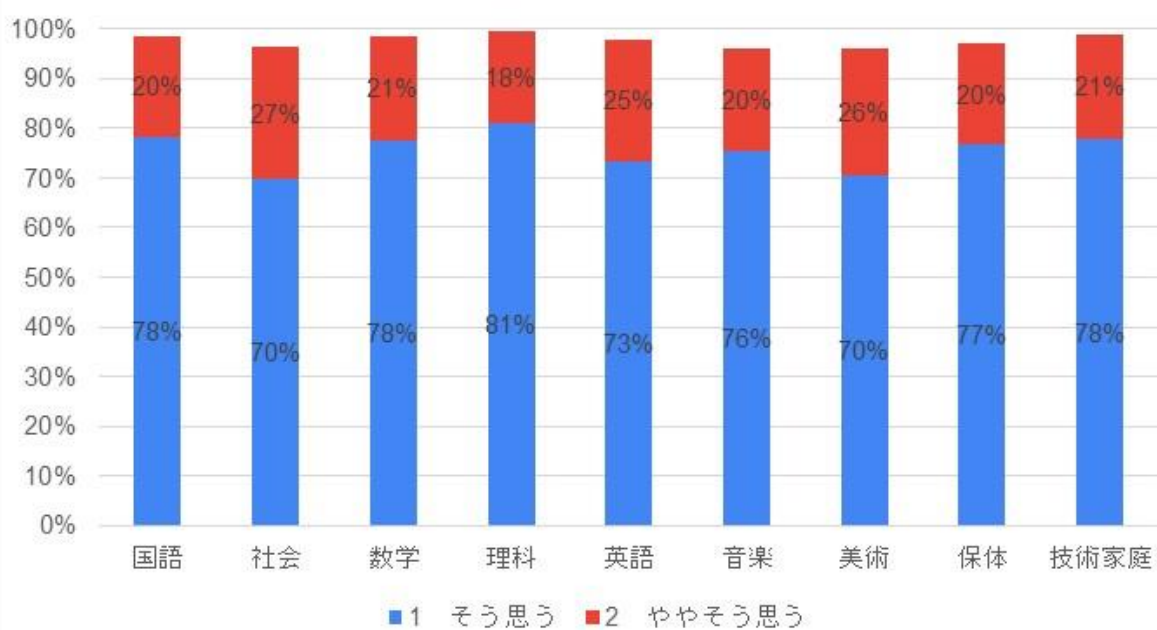
〈データ6〉 第1回授業についてのアンケートより（令和6年7月実施 対象全生徒）



3 ICTを利用した分かりやすい授業



4 授業により教科の力が付く



1 生徒の授業に対する**印象は良好**と言えます。

「第1回授業アンケート（令和6年7月実施）」を見ると、授業に関する質問4項目について肯定的評価（「そう思う」・「ややそう思う」など）をする生徒の割合は高いと言えます。

このことについては、「全国学力・学習状況調査」での同様の質問「授業はどれくらい分かっていますか？」において全国平均をすべての教科（国・数）で上回っていることから、他校と比較しても本校の生徒の授業に対する印象は良好と判断できます。

今後は、授業についての生徒の肯定的評価を伸ばすとともに、各質問の最上の選択肢を選ぶ生徒の数値の改善が大きな目標の1つとなります。また、教科によっては低めの評価になっている項目もあるので、今後、各教科で分析をして改善に取り組みます。

2 **理解できている**生徒をさらに**増やす**ことを目標にします。

特に「授業内容は授業時間内に理解できる」の「そう思う」と答える生徒の割合を増やすためには、生徒自身が主体的に取り組めるようにすることが重要です。そのためには、わかりやすい板書・説明・指示やICTを活用した教材の工夫が、今後さらに求められます。さらには、生徒との面談を重視し、「全国学力・学習状況調査」「大分県学力定着状況調査」「学力推移調査」等、全国規模の分析結果から分かる学力状況や学習状況についてのアドバイスを رفتり、進路について話し合い将来への道筋を思い描かせたりして、生徒を主体的な学びに導きたいと思えます。

「第2回授業アンケート（12月実施）」までに、「授業時間内に理解できる」と言える生徒の割合を増やしていくことが今後の目標です。

3 今後も生徒の**授業アンケートを重視**します。

「授業アンケート」は生徒の主観による評価ですので、教師の立場に立てば、一概に「生徒の評価がよい＝よい授業」というわけではありません。

しかしながら、本校は「全県一区」の中学校であり、「豊府で学びたい児童」が、小学校の友達とは別の選択をし、大分豊府中学の生徒となり、家族に協力してもらいながら、日々何時間も電車やバスに揺られて通学しているという現状に思いを馳せた時、生徒の主観データを改善させることは必須の取組です。今後も授業アンケートの結果を真摯に受け止めながら改善を行っていきます

4 強みをさらに伸ばすために中高合同で授業改善に取り組みます。

大分豊府中学校の強みの1つが活用力（身につけた知識・技能を活用し、問題を解く力、思考力・判断力・表現力）が育成できていることです。

そして、この活用力、すなわち思考力・判断力・表現力こそが、これからの激動の社会を生きる上で求められる能力とされています。

このような社会の動きから、大学入試も2020年から、大きく変更されました。既存の大学入試センター試験は廃止となり、代わって「大学入学共通テスト」が実施され、そのテストには、思考力・判断力・表現力を測定する問題も導入されました。思考力・判断力・表現力の育成を強みとする大分豊府中学校は、社会の動きや大学の動向を注視しながら、さらに強みを伸ばすために、中高合同でより組織的に、より計画的に授業改善に取り組み、どんなに社会が変化しようとも通用する学力の獲得を目指します。

5 思考力・判断力・表現力を養う問題を作成します。

2021年度からの新学習指導要領導入に際し、大分豊府中学校では、授業で育成した思考力・判断力・表現力を、どういう問題で、どのように測定するのかを2017年度から研究・導入してきました。

今後も、思考力・判断力・表現力を養う問題は、授業内で発問するとともに、定期考査等でも出題し、その養成と計測に努めていきます。

6 授業規律・学びに向かう姿勢を重視します。

なぜ大分豊府中学校で学力が伸びるのかを考える時に、授業を受ける態度の指導の徹底（授業規律の徹底）は欠かせない視点です。すなわち「先生の授業が分かりやすい」という評価以前の「授業に集中する雰囲気がある」という生徒自身の姿勢・態度の指導の徹底です。

このことの重要性を教師・生徒が再認識し、人の話を聴く態度、話し合い活動を行う際の秩序、発言を行う際のルールなどの指導、授業以外での場面の指導（帰りの会・集会・職員室入室の礼法・あいさつなどの指導）を今後も引き続き実施していきます。

また、大分豊府中学校では、授業態度の改善（授業2分前着席・静粛、授業時のあいさつの徹底）や課題の提出改善の呼びかけなどを生徒会の取組として行っており、学ぶ雰囲気作りを生徒の手によって醸成できています。今後も「豊府で学びたい生徒たちだからできる取組」の1つの伝統として継続していきます。

(2) 授業改善のテーマ

生徒の主体性の向上を目指し、中高6年間の各学年段階における思考力・判断力・表現力を育成する授業改善を通して、生徒の資質・能力を伸ばす指導法の工夫

(3) 授業改善の重点

学習活動における生徒の主体性の向上

(4) 取組内容

- ・ICTを活用した主体的・対話的な授業の実践と充実
- ・課題の個別最適化による授業外学習の実践と充実
- ・体系的でアウトプットスキルも伸ばす「総学」
- ・希望制による上位者指導の実施と充実

(5) 取組指標

- ・授業において主体的に考え積極的に参加した（生徒アンケート「4」の回答が70%以上）
- ・課題に対して積極的に取り組み学力が身についた（ 〃 ）
- ・「総学」の時間に積極的に取り組み、主体的に学ぶ姿勢が身についた（ 〃 ）
- ・主体的・探究的な学習姿勢を育成するために、ICT機器を活用している（職員アンケート「4」の回答が90%以上）
- ・生徒の主体性を向上させる取組や働きかけを行った（ 〃 ）

- ・各教科で研究授業と、それに付随する授業研究会を年1回以上実施。
- ・各教科の特質に応じた「ものの見方・考え方」を重視し、各教科で設定した研究テーマに基づいた授業改善を行う。

(6) 検証指標

短期

- 1 第2回授業アンケート（12月実施）の全ての項目で肯定的割合を増やす。
（主観データの数値改善）
- 2 令和6年度の大分県学力定着状況調査・全国学力学習状況調査ともに、〔活用〕の設問において、正答率を高い水準で維持する。（客観データの水準維持）

長期

- ・高校卒業後の生徒の進路志望の達成